

### 単元構想について

#### 1. 本質的な問い【何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」】

日本語とは違う表現や伝え方を知ること、物事の捉え方や文化の違いを理解できると考える。新たに得た物事の捉え方や文化の違いと自らがもつ考え方や価値観を比較することで、自らのもつ考え方や価値観が広がるのではないか。

#### 2. 単元を貫く問い【単元を通して考え深めていく「問い」】

推しを紹介するスピーチを聴き手が楽しみながら聞くことができるようにするにはどうすればよいか。

#### 3. 個別の問い【単元を構成する授業内で身に付ける知識・技能等】

- ・主格や目的格の代名詞を理解し、正確に使用することができるか。
- ・推しを紹介するスピーチに Why、Because を正確に使用することができるか。
- ・聞き手のことを考慮して適切にスピーチすることができるか。

### 単元について

#### ○ 取り扱う教科用図書について

本校の中学1年生は、「Sunshine English Course 1」（開隆堂）を通して英語学習をしている。「Sunshine English Course 1」（以下、教科書）では、Program 4～7にかけて第三者を表す表現である代名詞や三人称単数現在（以下、三単現）を継続的に取り扱っている。そして、Program 7後のOur Project 2において、「この人を知っていますか」というテーマでスピーチが設定されている。つまり、Program 4以降は第三者に関する語彙等の学習に焦点が当てられていると言える。このことを受けて、Our Project 2のスピーチを総括的評価の材料として取り扱う。そして、総括的評価に向けたProgram 4～7では形成的評価としてのスピーチを以下のように設定する。

単元	Program 4	Program 5	Program 6	Program 7	Our Project 2
言語材料等	this, that, who he, she, it	三単現	目的格の代名詞、 why, because	there 構文、 how	双括型の文構成
形成的評価		スピーチ①	スピーチ②		
総括的評価		中間試験		期末試験	スピーチ③

なお、スピーチについて、本校で作成しているCAN-DOリストでは1学年終了時点の段階で、「与えられたトピックについて40語程度で話すことができる。」（話すこと【発表】）と到達目標を設定している。

#### ○ 単元観

本単元は、中学校学習指導要領外国語編（以下、学習指導要領）、「話すこと【発表】」の指導事項「(イ) 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。」の内容を受けて設定したものである。教科書Program 6では、エミリーが健に対して、『世界の果ての通学路』という映画の登場人物である兄妹を主格、目的格の代名詞や三単現を用いて紹介している。また健はその映画の内容についてWhyを用いて質問し、エミリーはBecauseを用いて答える場面も含んでいる。以上のことから、教科書の内容と使用されている言語材料への理解を通して、人物を紹介する表現やスピーチにおいて聞き手に質

問する方法を学ぶことができる単元となっている。

## ○ 生徒観

本学級生徒に実施したアンケートにおいて、英語を話すことに対して苦手意識を持っている生徒が68%いる。そのうち、苦手に感じている内容とその理由は次のとおりである。

### ・英語特有の音声（55%）

日常的に英語特有の発音をしないうえ、難しさを感じていたり、人前で発音することに恥ずかしさを感じたりしていることが理由の大半を占めていた。

### ・英文の語順（77%）

日本語の語順と全く違うため、英文を作成することが難しい。特に主語に対応する be 動詞と一般動詞の使い分けに難しさを感じていることが理由の生徒が多い。

一方で、ALT と 1 対 1 のスピーキングテストなどについては、否定的な発言をするような場面も見られるが、テストが終わった後は「思ったより言えた。」「楽しかった。」などと発言するなど、前向きに挑戦しようとする生徒が多い。

以上のことから、日常的に使用する日本語と英語の違いに苦手意識を持っているが、英語を話すことには楽しさを感じているということが本学級生徒の実態であると言える。言い換えれば、英語を学習として捉えているときには、正確に表現できないことから苦手であるという意識を持ってしまいが、コミュニケーションの道具として英語を用いた際には、正確な英語ではなくてもコミュニケーションが成立することに楽しさを感じている生徒が多いと推察する。

## ○ 指導観

上述の「取り扱う教科用図書について」にあるように、2学期末に実施する Our Project2 の総括的評価に向けて、本単元ではスピーチを実施する。なお、本単元のスピーチについては、総括的評価につなげるために、形成的に評価する。

スピーチに向けて、はじめに生徒の誰もが知っている人物を提示し、特に何も指導しない状況で、ペアやグループ内でスピーチを試しに行わせる。その際、聞き手に伝わることを最も大切であることを伝え、コミュニケーションの道具としての英語を意識できるようにする。また、正確な英語ではなくても伝えようと努力することも促す。このようにして、生徒が英語を話すことに対する苦手意識を軽減できるように配慮する。また、伝えたい内容が伝えられないもどかしさを持たせ、その後の学習の中でそのもどかしさを解消できることを伝えることで、スピーチの完成に向けて学習意欲を高められるようにする。さらに、紹介する人物に関する情報をブレインストーミング（以下、ブレスト）してからマッピングする方法を指導する。なお、紹介する人物についての情報や授業で得た活用できる語彙や表現等は随時記録できるよう、ワークシートを配付する。

次に、教科書 pp. 72、73 の内容を取り上げ、映画『世界の果ての通学路』の登場人物である兄妹を、エミリーがどのように紹介しているのかを理解できるようにする。対話内容の理解に伴い、主格や目的格の代名詞、三単現の用法が人物紹介においてどのように用いられているのか、さらに why と because を生徒が自ら作成するスピーチの内容にどのように活用できるのかを捉えることができるようにする。そのために、内容理解においては、海外の学生の通学に関する映像等を示し、登場人物の通学についてイメージを持たせてから、主に事実発問を扱う。事実発問を通して概要を捉えた後に、記されている内容を映像化させる場面を設定し、登場人物の通学の実態を捉えることができるようにする。そして人物紹介として代名詞 he, him だけでなく she, her も同様に活用できることや主格の he, she については三単現を伴うことを確認させる。さらに、スピーチの聞き手に質問するという工夫により、聞き手がスピーチに聞きやすくなることを伝え、why の活用を考える場面を設定する。

次の段階として、教科書の内容理解を通して得た主格や目的格の代名詞、三単現の用法や why と because に関する体系的知識とスピーチの構成を活用して、スピーチをまとめることができるようにする。その際、まずはマッピングを丁寧に行い、生徒自身が伝える内容を精査することが大切であることを伝えるとともに、伝える内容が聞き手に分かる英語であることを意識させるために、既習事項を用いてスピーチ内容をつくることを理解できるようにする。そのために、未習事項を多く含む

スピーチをモデルとして示し、スピーチ内容の理解が難しいことに気づかせる場面を設定する。

スピーチの内容がまとまり次第、本番に向けて練習をさせる。まず個人、ペア、グループ、個人といった流れで、音読練習をさせる。その際、非言語的要素であるアイコンタクト、間、ジェスチャー等の活用方法についても指導することで聞き手を常に意識できるようにする。次に、タブレットとヘッドセットを利用してスピーチを動画撮影し、提出させる。動画内容については個別にフィードバックし、スピーチに向けての課題を明確にさせ、さらに練習ができるようにする。最後に学級生徒に向けて1人ずつスピーチを行う。聞き手が話し手の評価できるようにするため、評価シートを配付する。

最後に「振り返り」の段階で、聞き手が記入した評価シートを返却するとともに、スピーチの総括を行う。その際、Our Project 2に向けた課題点を明確にするとともに、モデルスピーチを最後に示す。

### 単元の目標

○聞き手に質問しながら、推しの紹介スピーチをすることができる。

### 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>主格や目的格の代名詞の特徴や用法を理解している。</li> <li>三単現の用法を理解している。</li> <li>why と because の特徴や用法を理解している。</li> <li>人物を紹介するスピーチを行う技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞き手を意識して、好きな人物を知ってもらえるように、スピーチをすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞き手を意識して、好きな人物を知ってもらえるように、スピーチをしようとしている。</li> </ul>

### 単元計画（全 14 時間）

時間	学習活動	重点	記録	備考
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>提示された人物についてスピーチをする。</li> <li>単元の目標を知る。</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>【本時】</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">聞き手を意識して、推しの紹介スピーチをしよう。</div>	知		
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書 p. 70 Scenes の内容を捉える。</li> <li>主格と目的格の代名詞を練習する。</li> <li>スピーチの準備をする。</li> </ul>	知		
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書 p. 70 Scenes の内容を捉える。</li> <li>why と because を練習する。</li> <li>スピーチの準備をする。</li> </ul>	知		
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書 p. 72 Think の内容を捉える。</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>【本時②】</b></p>	知		
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>主格と目的格の代名詞を練習する。</li> <li>三単現を練習する。</li> <li>スピーチの準備をする。</li> </ul>			

6	・教科書 p.73 Think の内容を捉える。	知		
7	・主格と目的格の代名詞を練習する。 ・三単現を練習する。 ・スピーチの準備をする。 【本時③】	知		
8	・スピーチの準備をする。	思		
9				
10	・スピーチの練習をする。	思		
11	・スピーチ動画を撮影する。	態		
12				
13	・スピーチを行う。 ・スピーチの評価をする。	知 思 態	○	・聞き手に質問しながら、スピーチをしている。  [動画分析]
14	・単元を振り返る。			

## 本時の学習

### (1) 本時の目標

- スピーチ練習を通して、生徒自身ができるスピーチの現状を知る。

### (2) 本時の評価規準

- 本時では、評価規準に示した評価はしない。

### (3) 本時の学習展開（1時間目／全14時間）

学習活動 ○主な発問 ・予想される生徒の反応	◇指導上の留意事項 ◆「努力を要する」状況と判断した 生徒への指導の手立て	◎評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 Warm-up (1) phonics ・ fuzicandrox ・ doom, <u>choke</u> , trash, ticket, <u>Philip</u> , rope, <u>hose</u>  (2) Pass the eraser ・ 動作動詞 ・ 人物を表す語  (3) Writing practice	◇文字と音のつながりを意識させるために、アルファベットの音と ch、sh、マジック e 等の特徴的な音を取り上げ、以後の指導に生かす。  ◇できるだけ多くの語を伝えあうことで、以後の人物紹介に生かすことができるようにする。  ◇三単現や目的格の代名詞を問う内容にすることで、以後の人物紹介に生かすことができるようにする。	
2 Introduction (1) 教師が人物紹介を紹介する。	◇モデルを示し、この後に実際に行う人物紹介の方法を大まかに知らせることで、生徒ができるだけスムーズに人物紹介に取り組めるようにする。	

<p>学習活動</p> <p>○主な発問</p> <p>・予想される生徒の反応</p>	<p>◇指導上の留意事項</p> <p>◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て</p>	<p>◎評価規準〔観点〕</p> <p>(評価方法)</p>
<p>(2) めあての提示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>どのくらい英語スピーチができるだろう？</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p><b>本時のゴールの見通し</b></p> <p>A：人物を紹介する際に、間違いを恐れず、三単現や代名詞等の既習事項を活用して、聞き手のことを考えながら、英語を話そうとしている。</p> <p>B：人物を紹介する際に、間違いを恐れず、三単現や代名詞等の既習事項を活用して、英語を話そうとしている。</p> </div>		
<p>3 Practice</p> <p>(1) ペアで提示された人物を紹介する。</p> <p>○磯野カツオ</p> <p>・ This is Katsuo Isono. He is a student. He likes baseball. I like him.</p> <p>○さくらももこ</p> <p>・ This is Momoko Sakura. She is a student. She is cute. I like her.</p> <p>(2) 人物紹介してうまく伝えられなかった点を交流する。</p> <p>・ 小学生はどう言えばいいのか知りたい。</p> <p>・ 「友達に○○がいる」と伝えたい。</p> <p>・ 「いつ（動詞に）sをつけるのか」が分からない。</p> <p>(3) ペアで提示された人物を紹介する。</p> <p>○磯野ワカメ</p> <p>・ This is Wakame Isono. She is in elementary school. She has a brother Katsuo. I like her.</p> <p>○野比のび太</p> <p>・ This is Nobita Nobi. He is in elementary school. He has friend Doraemon. I like him.</p> <p>(4) 野比のび太を取り上げ、ブレストとマッピングの方法を知る。</p>	<p>◆提示された人物について、正しい英語でなくても問題ないことを伝えながら、名前や家族構成などが伝えられるように、支援する。</p> <p>◇伝えたい内容をどのように英文にすればいいのかを全員で検討することで、次の人物紹介練習に生かす。</p> <p>◆提示された人物について、正しい英語でなくても問題ないことを伝えながら、(2) で確認した表現を促す。</p> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>□ <b>一人一人を尊重した授業をするための留意点</b></p> <p>ペア学習を行う際は、傾聴姿勢として、話し手に体を向け、あいづちをうつ。</p> </div> <p>◇ブレストを通して、できるだけ多くの情報を出させることで、マッピングに利用できるようにする。</p>	

<p>学習活動</p> <p>○主な発問</p> <p>・予想される生徒の反応</p>	<p>◇指導上の留意事項</p> <p>◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て</p>	<p>◎評価規準〔観点〕</p> <p>(評価方法)</p>
<p>(5) ペアで提示された人物を紹介する。</p> <p>○野比のび太</p> <p>・This is Nobita Nobi. He is in elementary school. He has friend Doraemon. He likes Shizuka Minamoto. I like him.</p> <p>4 Consolidation</p> <p>(1) 単元末に紹介する人物について記入するためのワークシートを配付する。</p> <p>(2) 本日の振り返り、ルーブリックの提示、そして今後について伝える。</p>	<p>◆板書されたマッピングの情報をもとに、間違いを恐れず、伝えることができるものに挑戦するように促すことで、授業初めのスピーチよりも伝えることができるようになっていくことを認める声かけをする。</p> <p>◇配付したワークシートは、今後の授業や課題として利用することを伝えるとともに、随時必要な情報を記入することも伝える。</p> <p>◇人物紹介において、This is…、He/She is…、He/She+動作動詞(三単現)、I like him/her. などを活用しながら、単元末に向けて準備をしていくことを伝えることで、単元の見通しを持たせる。</p> <p>◇黒板に書いたブレストとマッピングは写真で記録し、生徒がタブレットで閲覧できるようにすることで、今後のスピーチづくりに生かすことができるようにする。</p>	
<p>★めざす生徒の姿</p> <p>ブレストとマッピングを利用して、伝える内容を明確にし、状態動詞、動作動詞、代名詞を活用してスピーチをするとよいことが分かった。</p>		

(4) 板書計画

Timer	めあて どのくらい英語スピーチができるだろう？	
<p>主体</p> <p>I</p> <p>You</p> <p>We</p> <p>He</p> <p>She</p> <p>It</p>	<p>・動詞は1つだけ使う</p> <p>状態動詞 動作動詞</p> <p>am like/likes</p> <p>are have/has</p> <p>play/plays</p> <p>is cook/cooks</p> <p>など</p>	<p>のび太</p> <p>・小学生</p> <p>・友達</p> <p>ドラえもんー助けてくれる</p> <p>ジャイアン</p> <p>スネ夫</p> <p>しずか</p> <p>・あやとり</p> <p>・めがね</p> <p>など</p>

## 本時の学習

### (1) 本時の目標 ※本時の②

- 対話文の内容を捉えることができる。

### (2) 本時の評価規準

- 主格や目的格の代名詞の特徴や用法を理解している。【知識・技能】

### (3) 本時の学習展開 (4時間目/全14時間)

学習活動 ○主な発問 ・予想される生徒の反応	◇指導上の留意事項 ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て	◎評価規準〔観点〕 (評価方法)
<p>1 Warm-up</p> <p>(1) phonics</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ansarestiq</li> <li>・ <u>children</u>, <u>shop</u>, <u>Jackson</u>, <u>elephant</u>, <u>take</u>, <u>safe</u>, <u>place</u>, <u>amaze</u></li> </ul> <p>(2) Pass the eraser</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動物</li> <li>・ 家族に関する語</li> <li>・ アフリカの国</li> </ul> <p>(3) Writing practice</p> <p>2 Introduction</p> <p>(1) めあての提示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">対話文の内容を捉えることができる。</div>	<p>◇文字と音のつながりを意識させるために、アルファベットの音と ch、sh、マジック e 等の特徴的な音を取り上げ、以後の指導に生かす。</p> <p>◇できるだけ多くの語を伝えあうことで、対話文の内容理解に生かすことができるようにする。</p> <p>◇状態動詞 is と動作動詞の三単現の関係が分かる問いにすることで、以後の内容理解に生かすことができるようにする。</p>	
<p><b>本時のゴールの見通し</b></p> <p>A：主格や目的格の代名詞が指すものを捉え、対話文の概要を理解するとともに、登場人物の通学路を映像化できる。</p> <p>B：主格や目的格の代名詞が指すものを捉え、対話文の概要を理解することができる。</p>		
<p>(2) 生徒自身の登校について尋ねる。</p> <p>○How do you come to school?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ I walk to school.</li> </ul> <p>○How long does it take?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 15 minutes.</li> </ul> <p>(3) 本時の内容を聴き取る。</p> <p>○Where does Jackson live?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ He lives in Kenya.</li> </ul> <p>○How long does it take to school?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Two hours.</li> </ul>	<p>◇生徒の登校について尋ねることで、対話文の聴き取りがスムーズにできるようにする。</p> <p>◇聴き取りのポイントを質問の形で示すことで、聴き取るべき内容を絞る。</p>	

<p>学習活動 ○主な発問 ・予想される生徒の反応</p>	<p>◇指導上の留意事項 ◆「努力を要する」状況と判断した 生徒への指導の手立て</p>	<p>◎評価規準〔観点〕 (評価方法)</p>
<p>2 Comprehension (1) ワークシートを配付し、対話文を聴き取る。</p> <p>(2) 新出語を確認する。</p> <p>(3) 新出語の意味をワークシートに記入する。</p> <p>(4) 対話文の内容を捉える問いに答える。 ○Tell me about Jackson. ・Every morning he runs and walks 15 kilometers to school. ・It takes about two hours. ・He goes to school with his sister. ・He walks across the savanna with her.</p> <p>(5) 再度対話文を聴き取る。</p> <p>(6) 対話文に合わせて音読する。 1回目 (0.75 の速度) 2、3回目 (通常 の速度)</p>	<p>◇聴き取りの際は、発音される英語を指でなぞるように指示することで、音と文字のつながりを確認できるようにする。</p> <p>◇スライドショーを用いて、単語と意味が視覚的に確認できるようにするとともに、繰り返し発音させることで、音と文字のつながりを捉えることができるようにする。</p> <p>◇単語を音読しながら、日本語を書かせることで、文字と音のつながりとともに、意味も捉えることができるようにする。</p> <p>◇個人で考える時間をとった後に、班で考えを交流する場を設けることで、内容を大まかに捉えることができるようにする。 ◆代名詞 he に着目するように促すことで、読み取る部分を焦点化できるようにする。</p> <p>◇聴き取りの際は、発音される英語を指でなぞるように指示することで、音と文字のつながりを確認できるようにする。</p> <p>◇速度を落とした状態で、発音させることで、音と文字のつながりを意識できるようにするとともに、英語特有の音を捉えやすいようにし、苦手意識を軽減できるようにする。 ◇音読の際は、発音される英語を指でなぞるように指示することで、音と文字のつながりを確認できるようにする。</p>	<p>◎主格や目的格の代名詞の特徴や用法を理解している。 【知識・技能】 (ワークシート)</p>

<p>学習活動 ○主な発問 ・予想される生徒の反応</p>	<p>◇指導上の留意事項 ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て</p>	<p>◎評価規準〔観点〕 (評価方法)</p>
<p>(7) 対話文から予想できる登場人物の通学の一場面を描く。</p> <p>4 Consolidation (1) 本日の振り返りと今後について伝える。</p>	<p>◇班に用紙を1枚配付し、対話文にある情報を活用するように伝えることで、通学路の一場面をイメージしやすいように支援する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>□ 一人一人を尊重した授業をするための留意点 グループ学習を行う際は、司会を決め、全員の意見を出せるような場を設定し、その中でよりよいものをグループで選択できるようにする。</p> </div> <p>◇第1時に配付したワークシートに必要な情報を記入する場を設定し、本時の学習がのちのスピーチに生かすことができる場を設定する。 ◇人物紹介において、He/She is…、He/She+動作動詞(三単現)などを活用しながら、単元末に向けて準備をしていくことを伝えることで、単元の見通しを持たせる。</p>	
<p>★めざす生徒の姿 人物を紹介する際に、he や him, her などを活用したり、三単現を忘れないように注意したりすることが大切だと分かった。</p>		

(4) 板書計画

Timer	めあて 対話文の内容を捉えることができる。		班で描かせた絵を 掲示する
主体 I You We He She It	<small>・動詞は1つだけ使う</small> 状態動詞    動作動詞 am            like/likes are            have/has play/plays is              cook/cooks など	○Tell me about Jackson.  ・Every morning <b>he</b> runs and walks 15 kilometers to school.  ・ <u>It takes</u> about two hours. <small>時間がかかる</small>  ・ <b>He goes</b> to school with <u>his</u> <u>sister</u> . <small>彼の</small> ・ <b>He walks</b> across the savanna with <u>her</u> .	

## 本時の学習

### (1) 本時の目標 ※本時の③

- 対話文の内容からスピーチに活用できる表現を理解することができる。

### (2) 本時の評価規準

- why と because の特徴や用法を理解している。【知識・技能】

### (3) 本時の学習展開（7時間目／全14時間）

学習活動 ○主な発問 ・予想される生徒の反応	◇指導上の留意事項 ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て	◎評価規準〔観点〕 (評価方法)
<p>1 Warm-up</p> <p>(1) phonics</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ dangustic</li> <li>・ school, <u>ch</u>ildren, <u>rush</u>, Jackson, <u>e</u>lephant, <u>name</u>, safe, <u>plac</u>e</li> </ul> <p>(2) Pass the eraser</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 松村先生について</li> <li>・ 家族に関する語</li> </ul> <p>(3) Writing practice</p> <p>(4) めあての提示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">スピーチに活用できる表現を理解しよう</div>	<p>◇文字と音のつながりを意識させるために、アルファベットの音と ch、sh、マジック e 等の特徴的な音を取り上げ、以後の指導に生かす。</p> <p>◇できるだけ多くの語を伝えあうことで、人物紹介に生かすことができる表現を捉え、以後の指導に生かす。</p> <p>◇主体が三単現に対応するものとそうでないものを組み込み、動作動詞を適切に使用できるかどうかを考えられるようにし、以後の指導に生かす。</p>	
<p><b>本時のゴールの見通し</b></p> <p>A：スピーチにおいて、why などを活用し、質問を取り入れることが、聞き手を自らのスピーチに参加させる方法の1つであることに気付く。</p> <p>B：スピーチにおいて、why などを活用することができることに気付く。</p>		
<p>2 Review</p> <p>(1) 対話文を聴き取る。</p> <p>(2) 通常で速度で対話文を聴き、ディクテーションする。</p>	<p>◇聴き取りの際は、発音される英語を指でなぞるように指示することで、音と文字のつながりを確認できるようにする。</p> <p>◇人物紹介に関する表現等を中心に記入できるようにする。</p>	

<p>学習活動 ○主な発問 ・予想される生徒の反応</p>	<p>◇指導上の留意事項 ◆「努力を要する」状況と判断した 生徒への指導の手立て</p>	<p>◎評価規準〔観点〕 (評価方法)</p>
<p>(3) 対話文に合わせて音読する。 (0.75 の速度)</p> <p>(4) 対話文の内容を捉える問いに答える。 ○Why is the savanna dangerous? ・Because elephants sometimes attack school children. ○Why do Jackson's and his sister's parents pray? ・Because they want their children's safety. ○Why does Jackson go to school? ・Because he has a dream.</p> <p>(5) 対話文に合わせて音読する。 (通常 の速度)</p> <p>3 Comprehension</p> <p>(1) 第1時に取り上げたアニメキャラクターを用い、スピーチのモデルを示す。</p> <p>(2) モデルスピーチについて気付きを交流する。 ○モデルスピーチを聴いて、気付きを交流しましょう。 ・why と because が使われていた。 ・質問が含まれていた。 ・質問することがスピーチに役立っていた。</p>	<p>◇速度を落とした状態で、発音させることで、音と文字のつながりを意識できるようにするとともに、英語特有の音を捉えやすいようにし、苦手意識を軽減できるようにする。 ◇音読の際は、発音される英語を指でなぞるように指示することで、音と文字のつながりを確認できるようにする。</p> <p>◇why を用いた問いに対して、because と答えることを意識させることで、why と because が自らのスピーチに生かすことができることに気づく契機とする。</p> <p>◇音読の際は、発音される英語を指でなぞるように指示することで、音と文字のつながりを確認できるようにする。</p> <p>◇スピーチ内に、聞き手への質問を含むことで、聞き手がスピーチに参加させる方法であることに気づくことができるようにする。</p> <p>◇机間指導を通して、生徒の発言を拾い、全体にフィードバックし、質問がスピーチに生かせることに気づくことができるようにする。</p>	

<p>学習活動</p> <p>○主な発問</p> <p>・予想される生徒の反応</p>	<p>◇指導上の留意事項</p> <p>◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て</p>	<p>◎評価規準〔観点〕</p> <p>(評価方法)</p>
<p>4 Practice</p> <p>(1) 授業者を紹介するスピーチをする。</p> <p>(2) 授業者に関するブレストをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ This is Takeshi Matsumura.</li> <li>・ He is from Hiroshima city.</li> <li>・ He is a teacher of English.</li> <li>・ He speaks/can speak English.</li> <li>・ Students like him.</li> <li>・ He is funny.</li> </ul> <p>(3) ブレストで出た情報を質問にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Where is he from?</li> <li>・ What language does he speak?</li> <li>・ Why do students like him?</li> </ul> <p>(4) 授業者を紹介するスピーチをする。</p> <p>5 Consolidation</p> <p>(1) 本日の振り返りと今後について伝える。</p>	<p>◇まずは、何も指示せずにスピーチをさせる。机間指導を通して、質問を活用している生徒がいれば、全体に紹介する。</p> <p>◇ブレストで生徒から出た情報を板書し、この情報から質問してスピーチを構成するなら、どんな質問を作ることができるのかを考えさせる。</p> <p>◇質問を考える際に、既習の5W1Hと why に着目できるように支援する。</p> <p>◇質問を加えながら、スピーチをさせる。その際、質問後に間を置くなどの工夫が必要であることを机間指導で伝える。</p> <p>◇振り返りの際、本時に学習した質問の活用が、推しのスピーチに行かせるかどうかを確認させるため、第1時に配付したワークシートを見る機会を与える。</p>	<p>◎why と because の特徴や用法を理解している。</p> <p><b>【知識・技能】</b></p> <p>(行動観察)</p>
<p>★めざす生徒の姿</p> <p>スピーチをする際には、推しについての情報を単に伝えるだけでなく、質問を加えると、聞き手も自分のスピーチに参加しやすくなることが分かった。</p>		

(4) 板書計画

Timer	めあて スピーチに活用できる表現を理解しよう				
	○About Johnny Depp				
	・動詞は1つだけ使う				
主体	状態動詞	動作動詞			
I	am	like/likes	・ Takeshi Matsumura	→ What is his name?	
You	are	have/has	・ from Hiroshima city	→ Where is he from?	
We		play/plays	・ a teacher of English	→ What is his job?	
He		cook/cooks	・ speak English	→ What language does he speak?	
She	is	など	・ Students like him	→ Why do students like him?	
It			・ funny	→ Because he is funny.	

スピーチ評価のためのルーブリック

評価項目	5点	3点 (概ね満足できる)	1点
知・技 (正確さ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>主格や目的格の代名詞を正しく用いている。</li> <li>三単現を正しく用いている。</li> <li>why と because を正しく用いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>間違いはあるが、主格や目的格の代名詞を用いている。</li> <li>間違いはあるが、三単現を用いている。</li> <li>間違いはあるが、why と because を用いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主格や目的格の代名詞を全く違う形で用いている。</li> <li>三単現を全く違う形で用いている。</li> <li>why と because を全く違う形で用いている。</li> </ul>
思・判・表 (適切さ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞き手を意識して、非言語や質問等を用いてスピーチをすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞き手を意識してスピーチをすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スピーチをすることができる。</li> </ul>

※主体的に学習に取り組む態度については、思考・判断・表現と一体的に評価する。

生徒が作成するスピーチのゴールイメージ

単元	Program 4	Program 5	Program 6	Program 7	Our Project 2
言語 材料等	this, that, who he, she, it	三単現	目的格の代名詞、 why, because	there 構文、 how	双括型の文構成
形成的評価		スピーチ①	スピーチ②		
総括的評価		中間試験		期末試験	スピーチ③

(1) スピーチ①

This is Johnny Depp. He is from Hiroshima city. He is a teacher of English. He is kind. I like him. (21 words)

(2) スピーチ②

This is Johnny Depp. He is from Hiroshima city. He is a teacher of English. He speaks English well. Students like him. Why do they like him? Do you know? Because he is funny. I like him. (37 words)

(3) スピーチ③

This is my favorite person. Do you know him? He is Johnny Depp. Why do I like him? Do you know? I have two reasons. First, he is funny. So I like his English classes. Second, he is very helpful. So he always supports me during his classes. In this way, I like him very much. (56 words)

CAN-DO リスト (話すこと【発表】)

【1学年】

到達目標		評価
やりとり	・強勢，イントネーション，区切りなど基本的な英語の音声の特徴を捉え，正確に発音できる。	②
	・5W1Hなどを用いた平易な質問に2文程度答えることができる。	②
発表	・与えられたトピックについて40語程度で話すことができる。	②

※評価について…①定期試験 ②パフォーマンステスト ③小テスト等 ④ワークシート

【2学年】

到達目標		評価
やりとり	・強勢，イントネーション，区切りなど基本的な英語の音声の特徴を捉え，正確に発音できる。	②
	・聞いたり読んだりしたことについて，自分の考えなどを述べ合うことができる。	②
発表	・与えられたトピックについて50語程度で話すことができる。	②

【3学年】

到達目標		評価
やりとり	・聞いたり読んだりしたことについて，自分の考えなどを含めて問答したり述べ合ったりしている。	②
発表	・与えられたトピックについて50～80語程度で話すことができる。	②

卒業時の到達目標【話すこと・書くこと】

日常的・社会的な話題について，考えたことや感じたこと，その理由などを，簡単な語句や文を用いて話したり書いたりすることができる。